



蘇る一瞬 みとよ写真帳 page 40

このコーナーは、文書館に保存している古い写真を皆さんに紹介します。

※文書館では、まちの風景や催事などの古い写真を収集しています。原本はお返ししますので、情報の提供をお願いします。【文書館 ☎63・1010】



懐かしの1枚
簡易水道配水塔
昭和50(1975)年頃
豊中町

昭和29(1954)年に本山村で水道建設が計画され、昭和30(1955)年の町村合併により豊中村の事業として引き継がれ、同年に簡易水道が完成している。当時、農村部に水道が敷設されることは画期的なことであり、本山村で事業計画がたてられる時も賛否両論があったという。簡易水道の完成により、良質な飲料水が確保できるようになった。

「思い出の1ページ」

豊中町職員として、水道業務を22年間務めた牧則章さん(81)は当時をこう振り返ります。

「豊中町は宮川や財田川からの伏流水(湧き水)に恵まれ、飲料水にはほとんど井戸水を利用していましたね。ただ、一部の地域では、水に金気が含まれ、水質も良くありませんでした。そこで、良質な飲料水を確保するために写真の配水塔が建設されました。配水できる軒数は300軒くらいでしたが、良質な飲料水を確保できることは、当時としては画期的でしたよ。」

配水塔の高さは16mで、塔の上部には貯水量10mの貯水タンクが据え付けられています。地下深くにある井戸から、ポンプで汲み上げた水をこの貯水タンクに貯めておくのですが、タンク内の水量を計測するための検知器が時々故障するんですよ。そんなときは、管理用のはしごに登って、修理していましたよ、牧さんは円柱型の貯水タンクを指さしながら語ります。

「そういえば、仕事をしていた怖かった思い出がありますよ。タンクが漏水しているかもしれないから調査しようということになって、業者の人と一緒に、

タンクにしがみつきながら、幅30cmほどの足場を伝って恐る恐る確認していきました。平場なら楽々歩ける幅ですが、16mの高さとなるとなかなかさうはいかない。当時は命綱も無かったので、本当に怖かったですよ。」

使われなくなった今も当時の面影をそのまま残す簡易水道配水塔。近くに来たときはぜひご覧いただきたいです。

編集 後記



春 がやってきました。毎年この時期には、市内のあちらこちらで、いろんな花が咲き乱れます。桜、桃、菜の花、キンセンカ…。色鮮やかな花々は心を癒やしてくれます。

普段車で走っていても、気にもならない風景。でも、そこに花があるだけで、なんだか優しい気持ちになります。日々の仕事に追われ、疲れていても、きれいな花を見るだけで元気が湧いてきます。

皆さんも、ちょっとだけ心にゆとりを持って、花を眺めてみませんか。きっと、幸せな気分になれますよ。